

すいなんぼうしじゅぎょう  
— 水難防止授業「ういてまで」 —

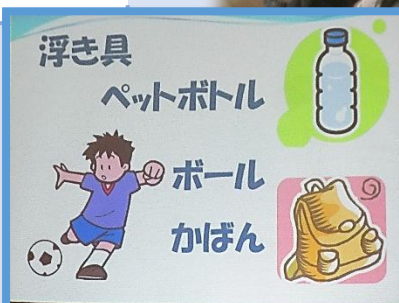


## ういてまで

(もしもの時は、浮いて待つ)

「一般社団法人 水難学会」の指導員が普及活動を行う水難事故対応プログラム

自分の経験を話す串田さん。  
実際の緊迫した様子が伝わってきました。↓



浮き具の紹介(スライドより) ↑  
「身近な所にある物を利用して助けることができる」

↑水難学会の指導員の串田さんからお話を聞きました。もしもの時には「ういてまで」。その具体的な行動を教えてくださいました。人命救助の経験がある講師の話は説得力があり、子どもたちはまっすぐに前を向いて話に聞き入っていました。

あいことば

合言葉は「ういてまで!」

がつ にち しょうがっこう すいなんぼうしじゅぎょう でまえじゅぎょう おこな  
6月30日、くすのき小学校で水難防止授業の出前授業が行われました。

- ① 溺れそうになった時は、慌てず、仰向けになり、脱力して浮いて待つ。
- ② 溺れている人がいたら、119番(海の場合は118番)通報し、身近にある浮き具(ペットボトルやランドセルなど)を投げて助ける。
- ③ 浮いて待つ人に「がんばれ!」と声をかけて励ます。

たいせつ いのち すく ただ こうどう こ こうし はなし  
大切な命を救うために正しく行動できるよう、子どもたちは講師の話を  
しっかりと受け止めていました。